

第5次国有林野施業実施計画書

(奥久慈森林計画区)

計画期間 自 平成28年4月1日
至 平成33年3月31日

関東森林管理局

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源涵養 ^{かん} タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	(4) 伐採総量	3
	(5) 更新総量	5
	(6) 保育総量	5
3	林道等の整備に関する事項	6
4	治山に関する事項	9
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	10
	(1) 保護林の名称及び区域	10
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	10
6	レクリエーションの森の名称及び区域	11
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	13
8	その他必要な事項	13
	(1) 施業指標林、試験地等	13
	(2) フィールドの提供	14
	(3) 森林共同施業団地	14
	(4) その他	15
附 属 参 考 資 料		
	(1) 国有林野の現況	16
	(2) 機能類型別の国有林野の現況	29
	(3) 林道等の現況	30
	(4) 収穫予想表	30
	(5) 地元施設等の現況	30

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

2 施業群の名称及び区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養^{かん}タイプにおける施業群別面積等

(単位：面積 ha、伐期齢 年)

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ長伐期	1,037.23	伐採面積の縮小、モザイク的配置	80
スギ分散伐区	4,964.92	〃	45
ヒノキ長伐期	891.81	〃	80
ヒノキ分散伐区	2,699.71	〃	50
アカマツ長伐期	869.37	〃	80
スギ複層林	1,657.03	水源涵養機能等に配慮した非皆伐	45～90
ヒノキ複層林	405.17	〃	50～100
天然生アカマツ分散伐区	511.78	伐採面積の縮小、モザイク的配置	50
ぼう芽分散伐区	1,985.26	〃	25
天然林漸伐分散伐区	688.40	伐採面積の縮小、モザイク的配置、伐採率の縮小	65
択伐	734.51	(注) 1による	回帰年は定めない
その他	180.43	(注) 2による	定めない
設定外	1,445.78	(注) 3による	定めない
合計	18,071.40		

- (注) 1 択伐施業群の伐採は森林の管理経営の指針で定める伐期齢以上とし、水源涵養機能の発揮に配慮しつつ、隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。
 2 保護樹帯の伐採は、保護樹帯設定基準によるものとする。
 3 施業群設定外は、分収林、更新困難地等の特定の施業方法を設定することが適当でない林地とする。
 4 面積は林地面積を計上している。

(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積	摘要
スギ長伐期	65	
スギ分散伐区	552	
ヒノキ長伐期	56	
ヒノキ分散伐区	270	
アカマツ長伐期	54	
スギ複層林	184	
ヒノキ複層林	41	
天然生アカマツ分散伐区	51	
ぼう芽分散伐区	397	
天然林漸伐分散伐区	53	
択伐	73	
その他	18	
合計	1,814	

(4) 伐採総量

(単位：材積 m³)

区 分	林			地		林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	—	89 (0.95)	89				
自然維持タイプ	—	— (—)	—				
森林空間利用タイプ	—	5,566 (63.23)	5,566				
水源涵養 タ イ プ	スギ長伐期	—	8,604	8,604			
	スギ分散伐区	175,166	98,577	273,743			
	ヒノキ長伐期	—	32,486	32,486			
	ヒノキ分散伐区	27,056	82,206	109,262			
	アカマツ長伐期	—	3,332	3,332			
	スギ複層林	—	11,484	11,484			
	ヒノキ複層林	—	17,764	17,764			
	天然生アカマツ分散伐区	—	538	538			
	ぼう芽分散伐区	—	—	—			
	天然林漸伐分散伐区	—	—	—			
	択 伐	—	13	13			
	そ の 他	—	87	87			
	設 定 外	146,954	5,195	152,149			
	計	349,176	260,286 (3,322.00)	609,462			
合 計	349,176	265,941 (3,386.18)	615,117	35,000	650,117	—	650,117
年 平 均	69,835	53,188 (677.24)	123,023	7,000	130,023	—	130,023

(注) () は、間伐面積(ha)である。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：材積 m³)

市町村名	林			地		林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
棚 倉 町	124,712	63,948	188,660				
矢 祭 町	44,330	43,550	87,880				
埴 町	113,963	110,782	224,745				
鮫 川 村	66,171	47,661	113,832				
合 計	349,176	265,941	615,117				

(注) 市町村別内訳には、臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
人工 造林	単層林造成	—	—	—	885.97	885.97
	複層林造成	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	885.97	885.97
天然 更新	天然下種第1類	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	—	—	—
	ぼう芽	—	—	—	60.34	60.34
	計	—	—	—	60.34	60.34
合 計		—	—	—	946.31	946.31

(6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
保 育	下 刈	0.07	—	—	3,550.03	3,550.10
	つ る 切	1.28	—	—	337.19	338.47
	除 伐	1.79	—	—	681.96	683.75

3 林道等の整備に関する事項

基幹・その他別	開設・改良	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
基幹	開設	鬼ヶ頬・鎌田（鎌田） （林業専用道）	50外	2,000	
		ヤギ沢（千泥） （林業専用道）	81	400	
		黒下 （林業専用道）	112	800	
	計	3路線		3,200	
	改良	旗宿・金山（伊香沢）	1	200	
		大森	13	300	
		鬼ヶ頬・鎌田（鎌田）	48	500	
		茗荷（茗荷）	58	300	
	計	4路線		1,300	
その他	開設	漆草 （林業専用道）	3	1,000	
		白子川 （林業専用道）	15	900	
		小中沢 （林業専用道）	16外	1,000	
		久慈川 （林業専用道）	18外	2,000	
		中之沢入 （林業専用道）	21外	1,500	
		びん沢 （林業専用道）	28外	1,000	
		日山沢 （林業専用道）	33外	700	
		八溝川 （林業専用道）	55	2,000	
		地の平 （林業専用道）	61外	1,300	
		高笹山 （林業専用道）	63	800	
		茗荷 （林業専用道）	58	1,000	（格上）

基幹・ その他別	開設 ・ 改良	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	開設	宝地 (林業専用道)	68外	1,000	
		高野谷地 (林業専用道)	67	1,000	
		ミハリノ沢 (林業専用道)	70外	1,500	
		コブノ沢 (林業専用道)	77外	2,000	
		追分 (林業専用道)	73	800	(格上)
		大沢 (林業専用道)	73	1,030	(格上)
		モミノ木沢 (林業専用道)	74外	1,600	(格上)
		矢殿 (林業専用道)	84外	2,600	
		長久木 (林業専用道)	95	700	(格上)
		折籠 (林業専用道)	101外	1,700	
		立石 (林業専用道)	98外	1,000	
		石堀子支線 (林業専用道)	102外	1,800	
		オカスノ沢 (林業専用道)	97	1,000	
		田代 (林業専用道)	112外	1,000	
		遠ヶ竜 (林業専用道)	266	1,000	
	計	26路線		32,930	
	改良	不動沢	1	200	
		小太郎沢	32外	300	
		近津	36	100	
		極楽沢	30外	200	
畑の沢		51外	300		

基幹・ その他別	開 設 ・ 改 良	路 線 名	箇 所 (林班)	延 長 (m)	備 考
そ の 他	改 良	茗 荷 分 線	57外	300	
		片 貝	91外	200	
		高 笹 山	62外	300	
		草 木	271外	200	
		唐 露	258外	200	
		樺 沢	11外	100	
		樺 沢 支 線	11外	100	
		北 沢	53外	100	
		八 溝 川	56外	400	
	地 の 平	62外	300		
	計	15路線		3,300	
合 計	開 設	29路線		36,130	
	改 良	19路線		4,600	

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できるものとする。

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
3、4、5、9、11、12、13、14、23、24、25、26、27、 54、55、57、59、61、62、88、89、90、91、92	保安林の整備	本数調整伐	123 ha
31、35、46、61	保安施設	溪間工	7箇所
17、57		山腹工	2箇所
合 計	保安林の整備		123 ha
	保安施設		9箇所

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できるものとする。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

当計画区には、林木の遺伝資源の保存を図ることを目的として、下記のとおり保護林を設定しており、貴重な天然林等の自然環境維持に配慮しながら適切に保存、保護を図っていくこととする。

種 類	名 称	新 設 ・ 既 設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林木遺伝資源 保 存 林	八溝山アカシ デ・ケヤキ	既 設	43.59	60と	八溝山の東斜面に存在する 貴重な天然林で、ブナ・ミズ ナラを主体とした林分の中 にアカシデ、ケヤキが生育 している。
計			43.59		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

該当なし。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	既設 新設	面積 (ha)	位置 (林 小 班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考	
風景	奥久慈	既設	46.31	15 た 16 ぬ、か 27 に、ほ	久慈川源流部と八溝山を連結する県道八溝山線の近景林として道路沿線を囲み、来訪者に美しい景観を提供している。	育成複層林へ導くための施業（以下、育成複層林施業という。）	既存の施設なし	国が実施する施設整備の計画なし		
				15 ち～る、か、よ、れ、そ 16 は～ほ、よ、た 27 ろ、は 28 い、ろ 31 む ₂ 、む ₃		天然生林へ導くための施業（以下、天然生林施業という。）				
15 イ 31 イ	林地以外									
林	八溝	既設	138.72	24 ぬ 25 に、か 26 へ ₃ 54 ぬ ₂ 60 ち、り	峰越林道真名畑・八溝線が通る八溝山山頂周辺には、ブナやミズナラの広葉樹林が広がり、通行者に近景林として景観を提供しているほか、山頂にある八溝嶺神社に訪れる参拝者や観光客に四季折々の眺望を提供している。	育成複層林施業	"	"		
				24 り ₁ 、り ₂ 25 は、わ ₁ 、わ ₂ 、れ、そ、つ 26 そ ₆ 54 る ₂ 、る ₃ 、わ ₂ ～わ ₄ 55 わ、か		天然生林施業				
				25 イ ₁ ～イ ₃ 54 イ ₁ ～ロ ₅		林地以外				
風景林計			185.03							

種類	名称	既設 新設	面積 (ha)	位置 (林 小 班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考
森 林 ス ポ ー ツ 林	山本不動	既設	64.35	36 ち	久慈川支流の宮川の清流と急峻な岩肌に自生するマツと広葉樹の景観が優れており、自然探勝、キャンプ等に利用されている。	育成複層林業	実施主体：棚倉町 ・野営場 ・園地	国が実施する施設整備の計画なし	
				36 い、へ、と、り～わ 38 ほ～ち		天然生林施業			
				36 イ、ロ 38 イ～ロ ₂		林地以外			
森林スポーツ林計			64.35						
そ の 他 (レ ク リ エ ー シ ョ ン の 森 施 設)	ふれあいの 森林園地	既設	3.57	10 る	単独レクリエーション施設	天然生林施業	実施主体：棚倉町 川越市 ・休憩施設 ・衛生施設	国が実施する施設整備の計画なし	
				10 イ 11 イ、ロ		林地以外			
	埴町自然 体験の森	既設	4.92	86 る ₂	〃	育成複層林業	実施主体：埴町 ・研修棟 ・野営場	〃	
				85 に ₂ 86 る ₄		天然生林施業			
そ の 他 計			8.49						
合 計			257.87						

7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

該当なし。

8 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
試験地	那須道 A 種 収穫試験地	S13.2	3.92	13 ち	成長量・収穫量及びその他の統計 資料を収集し、林分構造の推移の 解明 (ヒノキ)
	ヒノキ育成 天然林施業の 検証試験地	H11.4	1.76	9 た ₁ 、た ₂	天然下種により更新したヒノキ林 分について、現地の実態に応じた 効率的な保育方法の試験及び研究
	巻き枯らしによる 間伐効果の 検証試験地	H14.4	20.26	13 と ₄ 、と ₈ 、 と ₉	初期の保育間伐の作業効率向上と 労働力の軽減を図るとともに、健 全な森林育成のための施業方法と しての巻き枯らし効果を検証
試験地計			25.94		
展示林	ヒノキ展示林	S55.4	6.41	13 ろ ₆ 内	明治期の植栽以降、間伐等の施業 を適切に行った高齢級ヒノキ人工 林を長期的に存置し、森林施業の 研修・広報等に利用
	針広混交複層林 施業展示林	H16.4	4.88	18 い ₃	スギ人工林の間伐後、下木に広葉 樹を植栽して複層林へ導くための 施業を実施した林分を長期的に存 置し、森林施業の研修・広報等に 利用
	景観保全試験 展示林	H16.4	7.54	22 い内	景観への配慮のため、スギ人工林 の間伐とともに、広葉樹を保残・ 育成した林分であり、森林施業の 研修・広報等に利用
	自然植生導入 展示林	H16.4	2.99	31 つ ₂ 内	間伐等の施業コスト軽減のため、 当初から、将来的に期待される収 穫本数を植栽した林分を展示
	複層林施業展示林	H16.4	8.60	49 に ₁ 内	民有林における複層林施業導入の 促進・定着を図るため、森林施業 の研修・広報等に利用
	間伐施業展示林	H16.4	6.27	17 め ₂ 内	効率的かつ低コストで間伐施業を 適切に行った林分であるため、森 林施業の研修・広報等に利用
展示林計			36.69		

種 類	名 称	設定年	面積 (ha)	位 置 (林小班)	備 考
次代検定林	一 般 検 定 林 (関前第21号)	S49.5	0.61	59 り ₁	遺伝的生産能力の検定 (スギ)
	一 般 検 定 林 (関前第37号)	S51.4	1.35	74 よ ₃ 、よ ₄	遺伝的生産能力の検定 (アカマツ)
	地 域 差 検 定 林 (関前第22号)	S49.5	0.46	59 り ₂	精英樹種苗の生育に適した区域の 選定 (スギ)
	遺 伝 検 定 林 (関前第25号)	S49.5	0.63	59 り ₃	形質に関する遺伝的特性を解明 (ヒノキ)
	遺 伝 検 定 林 (関前第55号)	S57.5	1.10	258 に ₃	形質に関する遺伝的特性を解明 (スギ)
	抵 抗 性 検 定 林 (関耐寒風前橋宮9号)	S60.4	1.16	116 ほ ₂ 、ほ ₃	気象の害に対する抵抗性品種の創 出 (スギ)
	育成集団林プロジェクト (関前第73号)	H11.4	0.68	58 ろ ₄	第二世代品種としての検定・選抜 (スギ育種集団林)
	育成集団林プロジェクト (関前第74号)	H12.5	0.78	20 は ₅	第二世代品種としての検定・選抜 (スギ育種集団林)
次 代 検 定 林 計			6.77		
合 計			69.40		

(2) フィールドの提供

対象地 (林小班)	設 定 の 目 的	備 考
88 ハ 94 ろ	遊々の森 (矢塚希望の森)	設 定：平成18年10月 実施主体：埴町 面 積：2.36 ha
119 ち、り、か、イ	遊々の森 (さえずりの森)	設 定：平成21年10月 実施主体：鮫川村 面 積：16.96 ha

(3) 森林共同施業団地
該当なし。

(4) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置	面 積 (ha)	施 業 方 法
85 に ₁ 、ほ〜と ₃ 、る ₂ 〜る ₄ 、れ、そ ₂ 、ね、な 86 る ₁	64.38	育成複層林へ 導くための施業
84 る ₁ 、る ₂ 85 ち〜る ₁ 、わ〜た ₅ 、そ ₁ 、つ 86 る ₃	144.61	天然生林へ 導くための施業
計	208.99	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。